

審査意見への対応を記載した書類（6月）

目次

是正事項1：設置の趣旨・目的等	2
是正事項2：教育課程等	6
是正事項3：基礎ゼミシラバス	9
是正事項4：入学者選抜	11
改善事項5：教員組織	14
その他	14

短期大学部 歯科衛生学科

1. (是正事項)

【設置の趣旨・目的等】

設置の趣旨等を記載した書類（P7）では、ディプロマ・ポリシー④として「歯科衛生士としての職業倫理感と責任感をもって口腔衛生の観点から課題解決に向けて取り組む」ことを掲げているが、同書類P9ではディプロマ・ポリシー①の説明として「職業倫理感や責任感を養う」とことを掲げており、ディプロマ・ポリシー①及び④における「職業倫理感」と「責任感」の差異が不明確である。それぞれのディプロマ・ポリシーに基づき設定されたカリキュラム・ポリシーに関連する授業科目によって学生が修得すべき能力の違いが不明確であることから、学生に対し、本学科の設定するディプロマ・ポリシーの各項目に掲げる資質・能力が明確に伝わるよう、ディプロマ・ポリシー①及び④に掲げられた「職業倫理感」と「責任感」のそれぞれの言葉の定義を明確に示すとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

設置の趣旨等を記載した書類P9のディプロマ・ポリシー①内に記載している「職業倫理感や責任感」については、ご指摘の通りP7のディプロマ・ポリシー④の「職業倫理観」と「責任感」と差異があり整合性がないため、P9の「職業倫理観や責任感を養う」については削除し、「歯科診療補助論」及び「歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業科目の内容について追記する。

また、P5のディプロマ・ポリシー④の「地域社会が抱える健康課題に対し、歯科衛生士としての職業倫理観と責任感をもって口腔衛生の観点から課題解決に向けて取り組むことができる。」を満たすための科目をP10の④に記載しているが、それらの科目を一部見直し、見直した科目のシラバスに「職業倫理観」と「責任感」の要素を加えた。

※「倫理感」を「倫理観」へ全て修正しております。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類（5ページ、7ページ）

新	旧
<p>(P9)</p> <p>さらに「歯科診療補助論」及び「歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、歯科医療で用いられる歯科材料の種類や使用方法、様々なライフステージや特別な配慮を必要とする方に対応するための歯科診療補助に関する専門的な知識及び態度を修得する。</p> <p>(P10～P11)</p> <p>④地域社会が抱える健康課題に対し、歯科衛生士として職業倫理観と責任感をもって口腔衛生の観点から課題解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>「専門分野」の「歯科衛生士概論」「基礎歯科実習」</p>	<p>(P9)</p> <p>さらに「歯科診療補助論」及び「歯科診療補助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、医療安全と感染予防を学ぶことで歯科衛生士としての職業倫理感や責任感を養う。</p> <p>(P10～P11)</p> <p>④地域社会が抱える健康課題に対し、歯科衛生士としての職業倫理感と責任感をもって口腔衛生の観点から課題解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>「専門基礎分野」の「口腔衛生学」と「公衆衛生学」、専</p>

<p>等において、歯科衛生士としての職業倫理観と責任感を学ぶ。「臨床臨地実習Ⅰ・Ⅱ」や「地域歯科保健実習Ⅰ・Ⅱ」等により実践を通して、職業倫理観や責任感を体得するとともに、臨床の現場で体験した障がい者や高齢者に対する健康維持の問題点などの内容をもとに、「卒業研究」において地域社会が抱える健康課題をリストアップする。そのうちの一つを取り上げ、必要な資料の収集や文献検索を行い、歯科衛生過程の観点から解決法を立案する。</p>	<p>門分野」における「臨床歯科学」の各科目で学修した内容や「専門分野」の「臨床臨地実習Ⅰ・Ⅱ」や「地域歯科保健実習Ⅰ・Ⅱ」において臨床の現場で体験した障がい者や高齢者に対する健康維持の問題点などの内容をもとに、「卒業研究」において地域社会が抱える健康課題をリストアップする。そのうちの一つを取り上げ、必要な資料の収集や文献検索を行い、歯科衛生過程の観点から解決法を立案する。</p>
--	--

(新旧対照表) 「基礎歯科実習」シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業の概要】 歯科診療行為や歯科衛生士業務を実際の歯科診療所や施設において見学・体験する。この体験を通して、歯科診療や歯科衛生士という職業に対する自身の理解を深め歯科衛生士の活動の場を認識し、歯科衛生士としての職業倫理観と責任感を学ぶとともに、歯科診療所の機能および役割を理解する。</p> <p>【シラバス成績評価基準】 ・実習への取組姿勢・態度…歯科衛生士の業務を理解し、自ら行動する積極性や規律ある行動、倫理観・責任感について評価を行う。 ・レポート…歯科医療全般、歯科衛生士の業務、歯科診療所の機能および役割について理解度を評価する。 ・実習日誌…実習日誌の記入内容について評価を行う。</p>	<p>【シラバス授業の概要】 歯科診療行為や歯科衛生士業務を実際の歯科診療所や施設において見学・体験する。この体験を通して、歯科診療や歯科衛生士という職業に対する自身の理解を深め歯科衛生士の活動の場を認識するとともに、歯科診療所の機能および役割を理解する。また、今後の講義、演習および実習における学習を効果的なものとし、実習生としての自覚を持ち、望ましい態度で臨床臨地実習に臨むようにする。</p> <p>【シラバス成績評価基準】 ・実習への取組姿勢・態度…歯科衛生士の業務を理解し、自ら行動する積極性や規律ある行動について評価を行う。 ・レポート…歯科医療全般、歯科衛生士の業務、歯科診療所の機能および役割のついて理解度を評価する。 ・実習日誌…実習日誌の記入内容について評価を行う。</p>

(新旧対照表) 「臨床臨地実習Ⅰ」シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業の概要】 歯科衛生士業務の基礎的技術を演習により習得した上で、地域の一般歯科診療所や専門歯科診療所において実際に歯科診療補助や歯科衛生士の役割と業務について体験学習をする。この実習を通して、歯科診療全体の流れや患者対応および歯</p>	<p>【シラバス授業の概要】 歯科衛生士業務の基礎的技術を演習により習得した上で、地域の一般歯科診療所や専門歯科診療所において実際に歯科診療補助や歯科衛生士の役割と業務について体験学習をする。この実習を通して、歯科診療全体の流れや患者対応および歯科診療時</p>

<p>科診療時に使用する器具器材の取り扱いや準備、後処理等を習得し、さらに歯科診療室の環境整備や安全管理、リスク評価等についても理解する。また、歯科衛生士としての総合的実践力を修得し、さらに、歯科診療所の機能や歯科医師、歯科技工士等の歯科医療従事者の役割を理解し、歯科チーム医療についての知識と実践を理解するとともに、歯科衛生士としての職業倫理観と責任感および他の歯科医療従事者や患者とのコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【シラバス成績評価基準】 実習への取組姿勢・態度…歯科診療所のルール、歯科衛生士の業務を理解し、自ら行動する積極性や規律ある行動、患者への対応力、倫理観・責任感、他の歯科医療従事者とのコミュニケーション能力について評価を行う。 レポート…歯科診療の流れや器材等の取り扱い、歯科治療の特性と歯科衛生士の役割、歯科診療室の安全管理等についての理解度を評価する。実習日誌…実習日誌の記入内容について評価を行う。</p>	<p>に使用する器具器材の取り扱いや準備、後処理等を習得し、さらに歯科診療室の環境整備や安全管理、リスク評価等についても理解する。また、歯科衛生士としての総合的実践力を修得し、さらに、歯科診療所の機能や歯科医師、歯科技工士等の歯科医療従事者の役割を理解し、歯科チーム医療についての知識と実践を理解するとともに、他の歯科医療従事者や患者とのコミュニケーション能力を養う。</p> <p>【シラバス成績評価基準】 実習への取組姿勢・態度…歯科診療所のルール、歯科衛生士の業務を理解し、自ら行動する積極性や規律ある行動、患者への対応力、他の歯科医療従事者とのコミュニケーション能力について評価を行う。 レポート…歯科診療の流れや器材等の取り扱い、歯科治療の特性と歯科衛生士の役割、歯科診療室の安全管理等についての理解度を評価する。実習日誌…実習日誌の記入内容について評価を行う。</p>
--	---

(新旧対照表) 「臨床臨地実習Ⅱ」シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業テーマ】 学内の学びを総合的にとらえ、総合病院や高度医療機関における基本技術、知識を向上させる。</p> <p>【シラバス授業の概要】 病院において各専門領域における当該診療科の機能や専門性を学ぶとともに、高度先進歯科医療現場における歯科衛生士の立場や役割や責任、多職種との協働や連携について学ぶ。また、総合病院の歯科および口腔外科における当該診療科の機能、診療や症例の特性と歯科衛生士の役割、病院医療に従事する医療専門職の役割と多職種間の協働および協働で求められる歯科衛生士の責任を理解する。 入院中の患者に対する歯科的診療や口腔のケアおよび歯科の立場からできる生活支援等について、歯科衛生士としての基本的知識・技術・対応方法や入</p>	<p>【シラバス授業テーマ】</p> <p>【シラバス授業の概要】 病院において各専門領域における当該診療科の機能や専門性を学ぶとともに、高度先進歯科医療現場における歯科衛生士の立場や役割、多職種との協働や連携について学ぶ。また、総合病院の歯科および口腔外科における当該診療科の機能、診療や症例の特性と歯科衛生士の役割、病院医療に従事する医療専門職の役割と多職種間の協働を理解する。入院中の患者に対する歯科的診療や口腔のケアおよび歯科の立場からできる生活支援等について、歯科衛生士としての基本的知識・技術ならびに対応方法等を習得する。</p>

<p>院患者の対応に必要な倫理観等を習得する。</p> <p>【シラバス到達目標1】 歯科衛生士業務を学び、指導者からの指示内容を理解した責任ある行動ができる</p> <p>【成績評価基準】 実習への取組姿勢・態度…実習先のルール、歯科衛生士の業務を理解し、自ら行動する積極性や規律ある行動、患者や家族への対応力、倫理観・責任感、他の歯科医療従事者とのコミュニケーション能力について実習指導者および実習担当教員が評価を行う。事前・事後オリエンテーションへの参加態度・積極的な姿勢、実習指導に対する態度について評価を行う。実習日誌…実習日誌の記入内容について評価を行う。</p>	<p>【シラバス到達目標1】 歯科衛生士業務を学び、指導者からの指示内容を理解した行動ができる</p> <p>【成績評価基準】 実習への取組姿勢・態度…実習先のルール、歯科衛生士の業務を理解し、自ら行動する積極性や規律ある行動、患者や家族への対応力、他の歯科医療従事者とのコミュニケーション能力について実習指導者および実習担当教員が評価を行う。事前・事後オリエンテーションへの参加態度・積極的な姿勢、実習指導に対する態度について評価を行う。実習日誌…実習日誌の記入内容について評価を行う。</p>
--	--

(新旧対照表) 「地域歯科保健実習Ⅰ」シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業の概要】 幼稚園児、保育園児の保育活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、口腔の管理を行うために必要な、知識・技能・および態度・倫理観を身につける。 ライフステージ(幼児・学童期・青年期)における一般的特徴と口腔の特徴および歯科衛生介入について学ぶ。 歯科衛生過程に基づく集団を対象とした歯科保健教育を理解するとともに、対象別の歯科保健教育計画を立案し実施できるようにする。 学外実習を通じて、実践的な歯科保健教育活動に必要な講義・実習を通じて、保育士、幼稚園教諭、養護教諭、学校歯科医等との他職種との連携および連携で求められる歯科衛生士の責任を学ぶ。</p> <p>【シラバス到達目標3】 保育士等との他職種連携の重要性を学び、実習記録に残すことができる</p>	<p>【シラバス授業の概要】 幼稚園児、保育園児の保育活動に参加するとともに、園児の発達段階および日常生活行動について理解し、口腔の管理を行うために必要な、知識・技能・および態度を身につける。ライフステージ(幼児・学童期・青年期)における一般的特徴と口腔の特徴および歯科衛生介入について学ぶ。歯科衛生過程に基づく集団を対象とした歯科保健教育を理解するとともに、対象別の歯科保健教育計画を立案し実施できるようにする。学外実習を通じて、実践的な歯科保健教育活動に必要な講義・実習を通じて、保育士、幼稚園教諭、養護教諭、学校歯科医等との多職種との連携を学ぶ。</p> <p>【シラバス到達目標3】 保育士等との多職種連携の重要性を学び、実習記録に残すことができる</p>

(新旧対照表) 「地域歯科保健実習Ⅱ」 シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業テーマ】 施設における歯科衛生士の役割を理解し、口腔健康管理や多職種連携について修得する。</p> <p>【シラバス授業の概要】 ライフステージ（成人期・高齢期ほか）やスペシャルニーズが必要な対象者における一般的特徴と口腔の特徴、歯科衛生介入について学ぶ。 また、歯科衛生過程に基づく集団を対象とした歯科保健教育を行う場の特徴を理解するとともに、対象別の歯科保健教育計画を立案し実施できるようにする。 講義と学外実習を通じて、公衆衛生活動における社会福祉施設の役割を理解し、実践的な歯科保健教育活動に必要な知識と技能、倫理観を学び、さらに他の医療職や介護職に関わる多職種連携の重要性と歯科衛生士に求められる責任を学ぶ。</p> <p>【シラバス成績評価基準】 ・実習への取組姿勢・態度…実習中の積極的な意見、チームへの貢献度、集団指導の技量、他職種と連携する態度等により評価する。 ・レポート、実習記録表の評価…指導の目的や発達段階に応じた指導の理解力等を評価する。</p>	<p>【シラバス授業テーマ】</p> <p>【シラバス授業の概要】 ライフステージ（成人期・高齢期ほか）やスペシャルニーズが必要な対象者における一般的特徴と口腔の特徴、歯科衛生介入について学ぶ。また、歯科衛生過程に基づく集団を対象とした歯科保健教育を行う場の特徴を理解するとともに、対象別の歯科保健教育計画を立案し実施できるようにする。学外実習を通じて、公衆衛生活動における社会福祉施設の役割を理解し、実践的な歯科保健教育活動に必要な講義・実習し、他の医療職や介護職に関わる多職種連携の重要性を学ぶ。</p> <p>【シラバス成績評価基準】 ・実習への取組姿勢・態度…実習中の積極的な意見、チームへの貢献度、集団指導の技量等により評価する。 ・レポート、実習記録表の評価…指導の目的や発達段階に応じた指導の理解力等を評価する。</p>

2. (是正事項)

<p>【教育課程等】 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシーについて疑義があるため、教育課程全体の妥当性について判断することができない。このため、審査意見1をはじめとした関連する審査意見への対応を踏まえて、本学科の教育課程が、適正なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的に担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。</p>
--

(対応)

是正1の対応に加え、設置の趣旨P7ディプロマ・ポリシー②「少子高齢社会の進展に伴う多様な歯科・口腔保健のニーズを理解し、乳幼児や高齢者まで、基本的な歯科・口腔保健の対応ができる」についても一部シラバスの見直しを行った。また、資料2カリキュラムフローチャート、資料3カリキュラムマップについても修正を行い、これらの対応により、適正なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、教育課程全体の妥当性がとれ

ていることを明確にした。

(新旧対照表) 「生命科学の基礎」シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業の概要】 生物学・生命科学の基本的な知識を理解・習得することで、解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学、衛生学などの専門基礎科目の学習をスムーズに進めることを目的とする。また、本科目を通して、生命科学の立場に立った見かたや考え方を身に付ける。主として、生命、細胞の構造と機能、ヒトの組織と器官、遺伝子の働き、感覚器、神経細胞（ニューロン）の性質、中枢神経系と末梢神経系、体液と浸透圧、ホルモンとその働き、自律神経、生体防御、本能行動などを実際の臨床事例を適宜紹介しながら学習する。</p>	<p>【シラバス授業の概要】 生物学・生命科学の基本的な知識を理解・習得することで、解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学、衛生学などの専門基礎科目の学習をスムーズに進めることを目的とする。また、本科目を通して、生命科学の立場に立った見かたや考え方を身に付ける。主として、生命、細胞の構造と機能、ヒトの組織と器官、遺伝子の働き、感覚器、神経細胞（ニューロン）の性質、中枢神経系と末梢神経系、体液と浸透圧、ホルモンとその働き、自律神経、生体防御、本能行動などを学習する。</p>

(新旧対照表) 「口腔生理学」シラバス・授業科目の概要

新	旧
<p>【シラバス授業の概要】 口腔、顎、顔面には、他の身体部位に比べて多様な運動機能、感覚機能、自律機能が発現する。口腔生理学は、これらの機能が発現する仕組み（メカニズム）を明らかにする学問である。本科目では「歯・口腔・顔面の体性感覚」、「味覚」、「嗅覚」、「下顎位と下顎の運動」、「顎反射」、「咀嚼」、「吸啜」、「嚥下」、「嘔吐」、「唾液」、「発声と構音」を学修する。さらに、臨床の場における機能発達の遅れや加齢による口腔機能低下の評価を念頭に置いて、舌圧、咬合力、咀嚼能力、唾液分泌量、顔面の皮膚感覚を評価する実習を行い理解を深める。</p>	<p>【シラバス授業の概要】 口腔、顎、顔面には、他の身体部位に比べて多様な運動機能、感覚機能、自律機能が発現する。口腔生理学は、これらの機能が発現する仕組み（メカニズム）を明らかにする学問である。本科目では「歯・口腔・顔面の体性感覚」、「味覚」、「嗅覚」、「下顎位と下顎の運動」、「顎反射」、「咀嚼」、「吸啜」、「嚥下」、「嘔吐」、「唾液」、「発声と構音」を学修する。さらに、舌圧、咬合力、咀嚼能力、唾液分泌量、顔面の皮膚感覚を評価する実習を通して理解を深める。</p>

(新旧対照表) 「歯科診療補助演習Ⅱ」シラバス

新	旧
<p>【シラバス授業テーマ】 歯科診療補助の基礎を学び、共同作業の基本ルールと医療従事者としての責任を理解する。</p>	<p>【シラバス授業テーマ】 歯科診療補助の基礎を学び、共同作業の基本ルールと法的責任を理解する。</p>

(新旧対照表) 「口腔解剖学」授業科目の概要

新	旧
<p>【授業科目の概要】</p> <p>歯は食物摂取において重要な働きを担っている。従って、歯とその周辺組織の構造と機能を知ることが歯科衛生士に必須である。本科目では、ヒトの歯(乳歯、永久歯)の形態と構造および周辺組織の構造・機能を理解することを目的とする。講義では、歯の一般的な特徴や記号、方向用語について学び、次に永久歯、乳歯の個々の歯の形態について理解し、これらの歯が口腔内ではどのような位置的関係にあるかを考察する。また、歯と歯周組織の構造がどのようにになっているか、これらがどのように形成されるかを模式図や顕微鏡写真による視覚画像によって多角的に学ぶ。さらに下顎骨、顎関節、咀嚼筋の発育と加齢による変化の概略を学ぶ。</p>	<p>【授業科目の概要】</p> <p>歯は食物摂取において重要な働きを担っている。従って、歯とその周辺組織の構造と機能を知ることが歯科衛生士に必須である。本科目では、ヒトの歯(乳歯、永久歯)の形態と構造および周辺組織の構造・機能を理解することを目的とする。講義では、歯の一般的な特徴や記号、方向用語について学び、次に永久歯、乳歯の個々の歯の形態について理解する。さらにこれらの歯が口腔内ではどのような位置的関係にあるかを考察する。また、歯と歯周組織の構造がどのようにになっているか、またこれらがどのように形成されるかを模式図や顕微鏡写真による視覚画像によって多角的に学ぶ。</p>

(新旧対照表) 「病理学・口腔病理学」授業科目の概要

新	旧
<p>【授業科目の概要】</p> <p>病理学とはヒトの病気の成り立ちを科学的に学び、「基礎歯学」と「臨床歯学」との架け橋となる学問である。そのため、病理学の履修は臨床科目の理解度を深めるための不可欠な要素となる。全身や口腔に発生する様々な疾患の種類を知るだけでなく、各臓器の変化、原因(炎症、嚢胞、腫瘍、形成異常、加齢等)、発生機序、病態(経過や転帰)を習得すると共に、形態学的変化を観察し病理組織学的特徴を理解する。その上で、身体に現れる症状や徴候についての知識を身に付けることを目的としている。</p>	<p>【授業科目の概要】</p> <p>病理学とはヒトの病気の成り立ちを科学的に学び、「基礎歯学」と「臨床歯学」との架け橋となる学問である。そのため、病理学の履修は臨床科目の理解度を深めるための不可欠な要素となる。全身や口腔に発生する様々な疾患の種類を知るだけでなく、各臓器の変化、原因、発生機序、病態(経過や転帰)を習得すると共に、形態学的変化を観察し病理組織学的特徴を理解する。その上で、身体に現れる症状や徴候についての知識を身に付けることを目的としている。</p>

3. (是正事項)

本学科に配置された「基礎ゼミ」について、シラバスにおける授業計画を見ると、「大学での生活」や「クラス内のコミュニケーション」等が設定されている。オリエンテーションとして実施する意義は理解するものの、卒業単位に含まれる短期大学士課程相当の授業内容となっているか疑義がある。このため、本科目が、短期大学士課程にふさわしい内容になっていることを明確に説明するとともに、一部の内容は卒業単位に含まれる授業科目とは別にオリエンテーションとして実施することも含め、シラバスを含めた関連する記載について必要に応じて適切に改めること。

(対応)

シラバスの授業テーマを「歯科衛生士を目指すためのスタディスキルを身につけ、女性としてのキャリア形成について考える。」とし、短大での学修の基盤となるアカデミックスキルを学び、自らのキャリア育成のために必要な力を身につけることを目的とした。

シラバスの授業計画及び授業内容について、初回はオリエンテーションとし、基礎ゼミの授業テーマ、授業の概要、目標について説明を行い、まずは“自身”を知るための講義および個人ワークを行う。2・3回目に学園史や建学の精神について講義を行い、本学の学生として学ぶことの意義や目的、基本的な考え方の土台を学び、今後の学修を方向付けていく。4回目には実際にアイスブレイキングを交えながら、その意義と技法を学び、集団の中でのコミュニケーション方法を習得する。5～9回目ではより良い歯科衛生士になるための「主体的な学び」を行っていくため、レポート作成の基本を中心に、学修行動として不可欠なノートテイクや情報収集、文献検索方法、また情報リテラシーを学ぶ機会とした。

10・11回目では、ボランティア活動や自己発信力をテーマにコミュニケーションの本質について学び、12～14回目でグループワークを通して自身の価値観や意見を相手に伝え、他者についても理解しながら、女性としてのキャリア形成について考える機会とした。

15回目のまとめでは、歯科衛生士の仕事を知るだけでなく、他グループの発表等を聞き、意見交換を行った上で、それらが自身の進路にどのように結びつくかを考える機会とし、授業テーマや授業の概要との整合性を図った。

設置の趣旨 P42 の②「基礎ゼミ」に関連する内容について、上記に合わせた内容に修正を行った。

(新旧対照表) 基礎ゼミのシラバス・授業科目の概要

新	旧
授業テーマ 歯科衛生士を目指すためのスタディスキルを身につけ、女性としてのキャリア形成について考える。	授業テーマ 歯科衛生士を目指すためのスタディスキルを身につける。
授業の概要 短大での学修の基盤となるアカデミックスキルを学び、自らのキャリア育成のために必要な力を身につけることを目的とする。具体的には、レポート作成の基本を中心に、学修行動として不可欠なノートテイクや情報収集、文献検索方法等のスキルを身につける。また、「建学の精神」の理解や教員・学生間でのコミュニケーションを通して、他者を理解する力やコミュニケーション力を培う。	授業の概要 高校から大学への移行を円滑に行えるよう支援するとともに、自らのキャリア育成のために必要な力をつけることを目的とする。教員とのコミュニケーションを通して、履修指導、論文・レポートの書き方、数学および理科の基礎学力のサポート、マナー指導、進路相談などの他、学生同士の交流、学生生活を送る上での相談にも応じる。また、本学の教育学習支援システムの操作方法及び活用方法を学ぶ。
到達目標2	到達目標2

2. 短大生として学びの基盤となる学修方法(アカデミックスキル)を習得する	2. 歯科衛生士に関連する項目を学習することができる
到達目標3 3. 女性としてのキャリア形成を考える上で、自身の価値観を表現し、他者についても理解することができる	到達目標3 3. 個人面談による生活への順応や学生間・教員の人間関係を形成している
シラバスの(授業計画及び授業内容) 1、オリエンテーション(基礎ゼミの説明、自分について知る)(担当:全員) 2、学園史について学ぶ(担当:全員・ゲストスピーカー) 3、建学の精神について学ぶ(担当:全員・ゲストスピーカー) 4、アイスブレイキングの意義と技法の習得(集団の緊張感を和ませる雰囲気づくり)(担当:全員) 5、歯科衛生学科での学び(より良い歯科衛生士になるための主体的な学びについて)(担当:全員) 6、ノートテイキング・要約の技法、文章理解(担当:全員) 7、レポート作成入門①:客観的事実に基づく記述(担当:全員) 8、レポート作成入門②:引用の仕方と文献リストの作成(担当:全員) 9、短大生としての情報リテラシー(担当:全員) 10、コミュニケーション力の向上①「ボランティア活動」(担当:全員) 11、コミュニケーション力の向上②「自己発信力」(担当:全員・ゲストスピーカー) 12、グループワーク①「女性としてのキャリアについて考える」(担当:全員) 13、グループワーク②「女性としてのキャリアについて考える」(担当:全員) 14、グループワーク③ 各チームの発表、学生・教員からのフィードバック(担当:全員) 15、まとめ(歯科衛生士の仕事を知り、キャリアについて考える)(担当:全員)	シラバスの(授業計画及び授業内容) 1、オリエンテーション①(基礎ゼミの説明、大学での生活・カリキュラムについて)(担当:全員) 2、オリエンテーション②(クラス内のコミュニケーション、新入生研修について)(担当:全員) 3、オリエンテーション③(新入生研修振り返り)(担当:全員) 4、オリエンテーション④(担当:全員) 5、図書館ツアー(担当:全員) 6、教員とのコミュニケーション①(担当:全員)7、教員とのコミュニケーション②(担当:全員)8、プレゼンテーション① ビブリオバトル<1>(担当:全員) 9、プレゼンテーション② ビブリオバトル<2>(担当:全員) 10、自分について知る(担当:全員) 11、アカデミックスキル①(担当:全員・ゲストスピーカー) 12、アカデミックスキル②(担当:全員・ゲストスピーカー) 13、アカデミックスキル③(担当:全員) 14、歯科衛生士の仕事を知る(担当:全員) 15、まとめ(担当:全員)

設置の趣旨 P42 基礎ゼミの内容

新	旧
<p>(P42)</p> <p>②「基礎ゼミ」</p> <p>教育サポートの中心として、少人数制によるきめ細かな指導を行う。短大での学修の基盤となるアカデミックスキルを学び、自らのキャリア育成のために必要な力を身につけることを目的とする。具体的には、レポート作成の基本を中心に、学修行動として不可欠なノートテイクや情報収集、文献検索方法等のスキルを身につける。また、「建学の精神」の理解や教員・学生間でのコミュニケーションを通して、他者を理解する力やコミュニケーション力を培う。</p>	<p>(P42)</p> <p>②「基礎ゼミ」</p> <p>教育サポートの中心として、少人数制によるきめ細かな指導を行う。高校から大学への移行を円滑に行えるように支援するとともに、自らのキャリア育成のために必要な力をつけることを目的とする。教員とのコミュニケーションを通して、履修指導、論文・レポートの書き方、数学および理科の基礎学力のサポート、マナー指導、進路相談などの他、学生同士の交流、学生生活を送る上での相談にも応じる。また、本学の教育学習支援システムの操作方法及び活用方法を学ぶ。</p>

4. (是正事項)

【入学者選抜】

設置の趣旨等を記載した書類 (P25) に記載のあるアドミッション・ポリシー①では、「高等学校までの学習を通じて、歯科衛生士を志す基盤として必要なコミュニケーション能力と姿勢を備えている。」ことを掲げており、設置の趣旨等を記載した書類 (資料) 資料 14 では同ポリシーに強い関係がある評価方法として、主に「学力検査」や「基礎学力試験」を掲げている。しかしながらアドミッション・ポリシー①に掲げる「コミュニケーション能力」や「姿勢」を学力検査等でどのように評価するのか不明確であり、アドミッション・ポリシーを踏まえた適切な入学者選抜となっているか疑義がある。このため、審査意見 1 への対応を踏まえ、アドミッション・ポリシー①に掲げる資質・能力を入学者選抜において具体的にどのように評価するのか説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

アドミッション・ポリシー①に掲げる「歯科衛生士を志す基盤として必要なコミュニケーション能力と姿勢」の評価方法について、以下のとおり改める。については、設置の趣旨等を記載した書類【資料 14】「入学者選抜の評価方法と学力の 3 要素及びアドミッション・ポリシーとの関係」及び「8. 入学者選抜の概要 (2) 入学者選抜の実施計画と選抜方法」について、それぞれ修正を行う。

[評価方法の見直し内容]

- ① 一般選抜においては、「学力検査」に加え、「作文」を課し評価する。
テーマ例：「歯科衛生士を目指す理由と、将来どのように貢献したいか。高校時代等において他者と協働して取り組んだ経験を挙げ記載すること」など
- ② 大学入学共通テスト利用選抜においては、「共通テスト」に加え、「作文」を課し評価する。
テーマ例：「歯科衛生士を目指す理由と、将来どのように貢献したいか。高校時代等において他者と協働して取り組んだ経験を挙げ記載すること」など
- ③ 公募制推薦選抜においては、「学力検査」及び高等学校の調査書における「全体の学習成績の状況 (評定平均値)」に加え、「面接」を課し評価する。
- ④ 自己推薦選抜基礎学力チャレンジにおいては、「基礎学力試験」及び高等学校の調査書における「全体の学習成績の状況 (評定平均値)」に加え、「小論文」を課し評価する。

新			旧																														
<p>①一般選抜</p> <p>入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>募集人員</th> <th>選抜方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般選抜 前期 A 日程</td> <td rowspan="5">6</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目) 作文</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 前期 B 日程</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目) 作文</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 前期 C 日程</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目) 作文</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 前期 C 日程共通テストプラス</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目) 共通テスト (1 教科 1 科目) 作文</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 後期日程</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目) 作文</td> </tr> </tbody> </table> <p>一般選抜として、前期 A・B・C 日程及び後期日程の計 4 回を実施する。</p> <p>選考方法は、「国語」、「英語」から 1 科目選択に加え「作文」を課し選考する。出題範囲は「国語」は国語総合〔古文及び漢文を除く〕、「英語」はコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱである。</p> <p>一般選抜 前期 C 日程では大学入学共通テストの高得点 1 科目 (200 点換算) を加えて判定を行う共通テストプラス試験を実施。共通テストは全科目を対象とする。</p>			種 別	募集人員	選抜方法	一般選抜 前期 A 日程	6	学力検査 (1 教科 1 科目) 作文	一般選抜 前期 B 日程	学力検査 (1 教科 1 科目) 作文	一般選抜 前期 C 日程	学力検査 (1 教科 1 科目) 作文	一般選抜 前期 C 日程共通テストプラス	学力検査 (1 教科 1 科目) 共通テスト (1 教科 1 科目) 作文	一般選抜 後期日程	学力検査 (1 教科 1 科目) 作文	<p>①一般選抜</p> <p>入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>募集人員</th> <th>選抜方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般選抜 前期 A 日程</td> <td rowspan="5">6</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目)</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 前期 B 日程</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目)</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 前期 C 日程</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目)</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 前期 C 日程共通テストプラス</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目) 共通テスト (1 教科 1 科目)</td> </tr> <tr> <td>一般選抜 後期日程</td> <td>学力検査 (1 教科 1 科目)</td> </tr> </tbody> </table> <p>一般選抜として、前期 A・B・C 日程及び後期日程の計 4 回を実施する。</p> <p>選考方法は、「国語」、「英語」から 1 科目選択とする。出題範囲は「国語」は国語総合〔古文及び漢文を除く〕、「英語」はコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱである。</p> <p>一般選抜 前期 C 日程では大学入学共通テストの高得点 1 科目 (200 点換算) を加えて判定を行う共通テストプラス試験を実施。共通テストは全科目を対象とする。</p>			種 別	募集人員	選抜方法	一般選抜 前期 A 日程	6	学力検査 (1 教科 1 科目)	一般選抜 前期 B 日程	学力検査 (1 教科 1 科目)	一般選抜 前期 C 日程	学力検査 (1 教科 1 科目)	一般選抜 前期 C 日程共通テストプラス	学力検査 (1 教科 1 科目) 共通テスト (1 教科 1 科目)	一般選抜 後期日程	学力検査 (1 教科 1 科目)
種 別	募集人員	選抜方法																															
一般選抜 前期 A 日程	6	学力検査 (1 教科 1 科目) 作文																															
一般選抜 前期 B 日程		学力検査 (1 教科 1 科目) 作文																															
一般選抜 前期 C 日程		学力検査 (1 教科 1 科目) 作文																															
一般選抜 前期 C 日程共通テストプラス		学力検査 (1 教科 1 科目) 共通テスト (1 教科 1 科目) 作文																															
一般選抜 後期日程		学力検査 (1 教科 1 科目) 作文																															
種 別	募集人員	選抜方法																															
一般選抜 前期 A 日程	6	学力検査 (1 教科 1 科目)																															
一般選抜 前期 B 日程		学力検査 (1 教科 1 科目)																															
一般選抜 前期 C 日程		学力検査 (1 教科 1 科目)																															
一般選抜 前期 C 日程共通テストプラス		学力検査 (1 教科 1 科目) 共通テスト (1 教科 1 科目)																															
一般選抜 後期日程		学力検査 (1 教科 1 科目)																															
<p>②大学入学共通テスト利用選抜</p> <p>入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>募集人員</th> <th>選抜方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期</td> <td rowspan="3">4</td> <td>共通テスト (2 教科 2 科目) 作文</td> </tr> <tr> <td>大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期</td> <td>共通テスト (2 教科 2 科目) 作文</td> </tr> <tr> <td>大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期</td> <td>共通テスト (2 教科 2 科目) 作文</td> </tr> </tbody> </table> <p>大学入学共通テスト利用選抜として、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の日程で計 3 回を実施する。</p> <p>選考方法は、国語または外国語 (英語)〔リスニングは除く〕のいずれか高得点 1 科目、及びその他の高得点 1 科目の 2 科目とする。但し、国語または外国語 (英語)〔リスニングは除く〕の 2 科目が高得点の場合は、その 2 科目を採用</p>			種 別	募集人員	選抜方法	大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	4	共通テスト (2 教科 2 科目) 作文	大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期	共通テスト (2 教科 2 科目) 作文	大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期	共通テスト (2 教科 2 科目) 作文	<p>②大学入学共通テスト利用選抜</p> <p>入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>募集人員</th> <th>選抜方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期</td> <td rowspan="3">4</td> <td>共通テスト (2 教科 2 科目)</td> </tr> <tr> <td>大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期</td> <td>共通テスト (2 教科 2 科目)</td> </tr> <tr> <td>大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期</td> <td>共通テスト (2 教科 2 科目)</td> </tr> </tbody> </table> <p>大学入学共通テスト利用選抜として、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の日程で計 3 回を実施する。</p> <p>選考方法は、国語または外国語 (英語)〔リスニングは除く〕のいずれか高得点 1 科目、及びその他の高得点 1 科目の 2 科目とする。但し、国語または外国語 (英語)〔リスニングは除く〕の 2 科目が高得点の場合は、その 2 科目を採用</p>			種 別	募集人員	選抜方法	大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	4	共通テスト (2 教科 2 科目)	大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期	共通テスト (2 教科 2 科目)	大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期	共通テスト (2 教科 2 科目)								
種 別	募集人員	選抜方法																															
大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	4	共通テスト (2 教科 2 科目) 作文																															
大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期		共通テスト (2 教科 2 科目) 作文																															
大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期		共通テスト (2 教科 2 科目) 作文																															
種 別	募集人員	選抜方法																															
大学入学共通テスト利用選抜Ⅰ期	4	共通テスト (2 教科 2 科目)																															
大学入学共通テスト利用選抜Ⅱ期		共通テスト (2 教科 2 科目)																															
大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期		共通テスト (2 教科 2 科目)																															

ずれか高得点 1 科目、及びその他の高得点 1 科目の 2 科目に加え「作文」を課し選考する。但し、国語または外国語（英語）〔リスニングは除く〕の 2 科目が高得点の場合は、その 2 科目を採用する。

③学校推薦型選抜

入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。

種 別	募集人員	選抜方法
公募制推薦選抜 前期日程	5	学力検査(1 教科 1 科目) 面接 学習成績の状況加点
公募制推薦選抜 後期日程		学力検査(1 科目 1 科目) 面接 学習成績の状況加点
指定・協定校制推 薦選抜	16	書類審査(調査書・志望理 由書・課題)、面接
真宗大谷派系高 等学校推薦選抜		書類審査(調査書・志望理 由書・課題)、面接
内部推薦選抜(併 設高校対象)		書類審査(調査書・志望理 由書・課題)、面接
スポーツ推薦(陸 上競技)選抜		書類審査(調査書・競技成 績一覧・課題レポート)、面 接

公募制推薦選抜として、前期・後期の日程で計 2 回実施する。選考方法は、「国語」、「英語」から 1 科目選択及び面接に加え、学習成績の状況を加点(学習成績の状況を 10 倍し点数化)し選考する。

④総合型選抜

総合型選抜は、本学の教育理念、教育内容を理解し、本学で学びたいという強い意志を持った者を対象として多面的・総合的な選抜を行う。入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。

種 別	募集人員	選抜方法
面接方式	30	面接、書類審査(調 査書・志望 理由書)
自己推薦選抜 基礎学力チャレ レンジ	6	学力検査(1 教科 1 科目) 小論文 学習成績の状況加 点

面接方式においては、面接と書類審査により選考する。自己推薦選抜基礎学力チャレンジにおいては、国語(国語総合〔古文及び漢文を除く〕)、英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・

する。

③学校推薦型選抜

入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。

種 別	募集人員	選抜方法
公募制推薦選抜 前期日程	5	学力検査(1 教科 1 科目)、 学習成績の状況加点
公募制推薦選抜 後期日程		学力検査(1 科目 1 科目)、 学習成績の状況加点
指定・協定校制推 薦選抜	16	書類審査(調査書・志望理 由書・課題)、面接
真宗大谷派系高 等学校推薦選抜		書類審査(調査書・志望理 由書・課題)、面接
内部推薦選抜(併 設高校対象)		書類審査(調査書・志望理 由書・課題)、面接
スポーツ推薦(陸 上競技)選抜		書類審査(調査書・競技成 績一覧・課題レポート)、面 接

公募制推薦選抜として、前期・後期の日程で計 2 回実施する。選考方法は、「国語」、「英語」から 1 科目選択及び学習成績の状況を加点(学習成績の状況を 10 倍し点数化)し選考する。

④総合型選抜

総合型選抜は、本学の教育理念、教育内容を理解し、本学で学びたいという強い意志を持った者を対象として多面的・総合的な選抜を行う。入学者選抜の種別、募集人員及び選抜方法は、次の表に示すとおりである。

種 別	募集人員	選抜方法
面接方式	30	面接、書類審査(調 査書・志望 理由書)
自己推薦選抜 基礎学力チャレ レンジ	6	学力検査(1 教科 1 科目)、 学習成績の状況加 点

面接方式においては、面接と書類審査により選考する。自己推薦選抜基礎学力チャレンジにおいては、国語(国語総合〔古文及び漢文を除く〕)、英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・

表現Ⅰ・Ⅱ) から 1 科目選択の学力試験及び小論文に加え、学習成績の状況を点数化(学習成績の状況の 10 倍)し加点し選考する。	Ⅱ) から 1 科目選択の学力試験に加え、学習成績の状況を点数化(学習成績の状況の 10 倍)し加点し選考する。
---	--

5. (改善事項)

【教員組織】

専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

本学科の教員組織については、完成年度までに定年を超える教員が 4 名いるが、本学園の教職員定年規程第 4 条および有期雇用契約教職員就業規則第 7 条に基づき、退職となる際には、年齢構成に十分配慮し、計画的に若手教員等を補充・育成することで教育研究活動が継続して運営できる体制を維持していく計画である。具体的な教員組織の将来構想を以下のとおり、設置の趣旨等を記載した書類に明記した。

(新旧対照表) 教員組織

新	旧
<p>(P30) 学年進行中に65歳の定年規程を超える教員が4名いるが、本学園の教職員定年規程第4条および有期雇用契約教職員就業規則第7条に基づき、適切な運用をはかる。 現職の専任教員が定年退職する際は、年齢構成を勘案し、本学科の教育水準の維持・向上及び教育研究の活性化に支障が出ないよう、採用計画を策定する。具体的には、定年退職等の当該年度もしくは前年度に兼任教員として後任を雇い、十分な引継ぎ期間を設けた上で専任教員として採用する。採用する教員については、同分野の教育研究業績のある20代～40代の若手教員、40代～50代の中堅または経験豊富な教員をバランスよく配置し、継続性を担保する。</p>	<p>(P30) 学年進行中に65歳の定年規程を超える教員については、特別任用教授規程に基づき、適切な運用をはかる。 完成年度以降の教員配置については、年齢構成を勘案し、引き続き本学科の教育水準の維持・向上及び教育研究の活性化に支障が出ないよう、採用計画を策定する。また退職教員の後任人事については、退職教員と同分野・領域の専任教員を採用する。採用については、完成年度以降も、教育研究業績や年齢構成等を十分勘案のうえ、計画に基づき採用する事になっている。</p>

6. (その他)

今回、是正 1～4 と改善 5 についてご指摘をいただき対応しておりますが、3 月提出時の資料 03_図面に記載しております「富小路まちやキャンパス」については借地であり、今回の認可申請書類からはすべて削除し、関連する以下の書類については青字の修正及び資料の削除をいたします。

- ・基本計画書：①校舎の「共有」、「共有する他の学校等の専用」、「計」の数値を修正
②教室等の演習室の数を修正
- ・資料 03_図面：資料削除
- ・資料 05_設置の趣旨 (本文)：P32 より文言削除

以上